島根県水産技術センター　漁況情報　平 19 年 5 月 1 日発行

トビウオ通信　（H19　第 4 号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　（TEL 0855-22-1720）

《平成 18 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

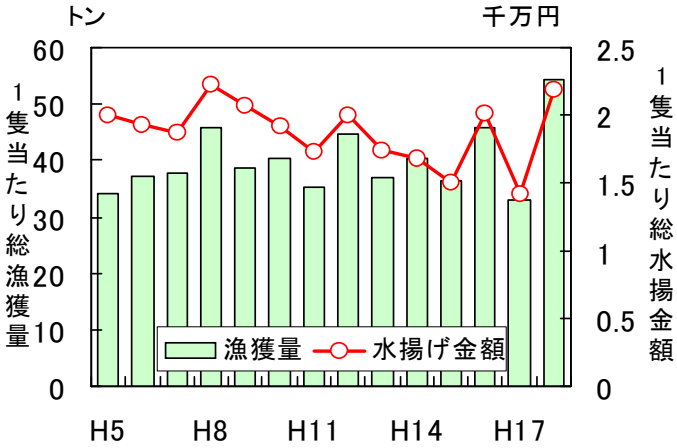

図1　小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量・水揚金額の動向(漁期前半)

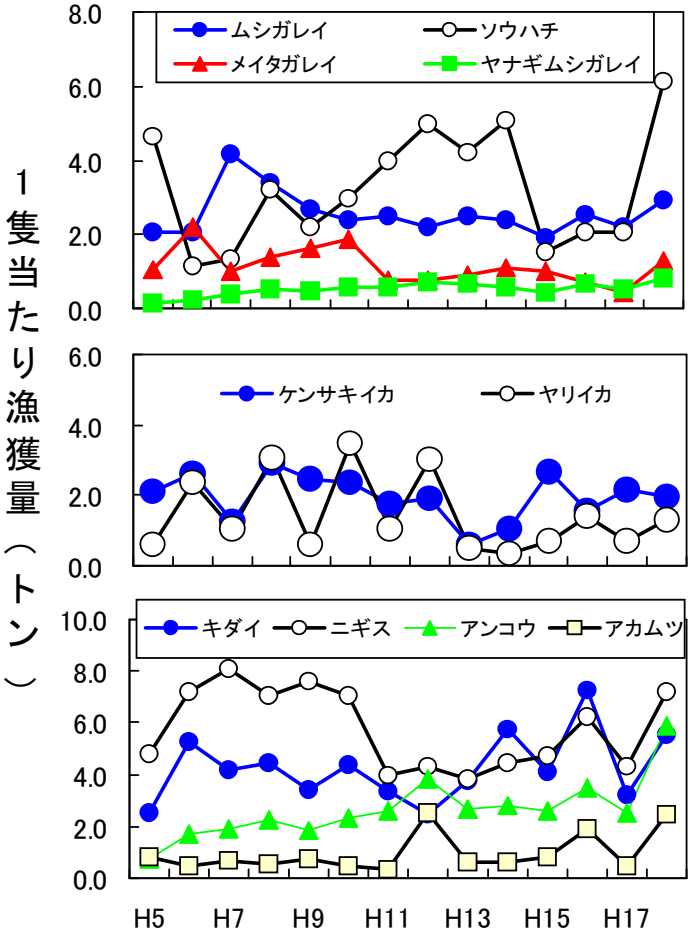

図2　小型底びき網漁業における主要魚種の動向

1 隻当り漁獲量、金額が回復！

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）56 隻*の平成 18 年漁期前半（平成 18 年 9 月 1 日～12 月 31 日）の総漁獲量は 3,047 トン、総水揚金額は 12 億 2,541 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 54 トン、水揚げ金額は 2,188 万円といずれも前年（33 ﾄﾝ、1,419 万円）、平年（過去 10 年間の平均値　40 ﾄﾝ、1,831 万円）を上回りました（図 1）。漁期当初から大型クラゲが来遊しましたが、沖合では比較的少なかったこと、冬季の海況が穏やかで出漁日数が平年並みに回復したことに加えて、主要魚種が好調だったことが主な原因と考えられます。

＊　当漁業における島根県全体の操業隻数は 57 隻ですが、統計は 56 隻分の集計です。

カレイ類好調！

主要魚種であるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 6.1 トンで、前漁期の 3 倍、平年の 2 倍の漁獲がありました。また、ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.9 トンで、平年を 2 割上回りました。また、近年安定しているヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 4 割上回る 0.8 トン、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 2 割上回る 1.3 トンでした。カレイ類は全体的に好調に推移しました。

イカ類平年並み

ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.9 トンで、前漁期を 1 割下回り、平年並みに留まりました。また、ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.3 トンで、平年を 1 割下回りました。ケンサキイカ、ヤリイカは平年並み～やや低調に推移しました。

アンコウ・アカムツ好調！

ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 7.2 トンで、前漁期を 6 割、平年を 3 割上回りました。キダイの 1 隻当たり漁獲量は 5.5 トンで、前年を 7 割、平年を 3 割上回りました。近年高水準で推移しているアンコウの 1 隻当たり漁獲量は 5.9 トンで、平年の 2 倍以上の漁獲がありました。また、アカムツの 1 隻当り漁獲量は 2.5 トンで、前年の 5 倍、平年の 2.7 倍の漁獲がありました。

沖合底びき網漁業（2 艘びき）（県西部）

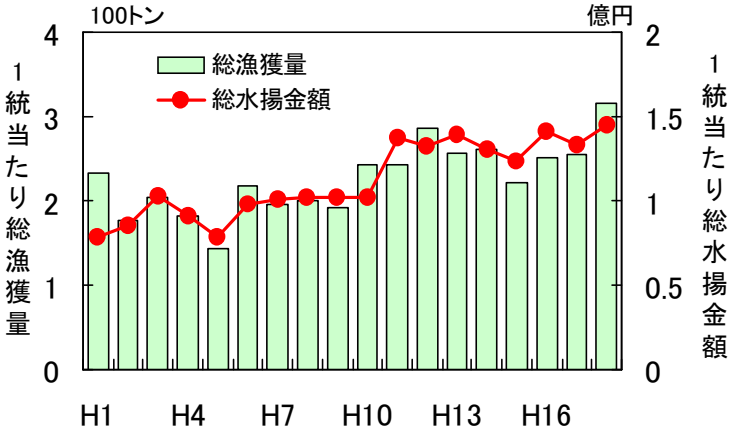

図3　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における
1ヶ統当り漁獲量・水揚げ金額の動向（漁期前半）

1 統あたり漁獲量・金額は近年では最高

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 5 ヶ統）の平成 18 年漁期前半（平成 18 年 8 月 15 日～18 年 12 月 31 日）の総漁獲量は 1,583 トン、総水揚金額は 7 億 2,789 万円でした。また、1 統当たりでは、漁獲量 316 トン、水揚げ金額 1 億 4,558 万円で、前年（256 ﾄﾝ、1 億 3,291 万円）及び平年（過去 10 年平均　241 ﾄﾝ、1 億 2,104 万円 ）を上回りました。漁期当初から大型クラゲが大量に来遊しましたが、沖合では比較的少なかったこと、主要魚種であるカレイ類が堅調だったことに加え、アンコウやアカムツ等が好調だったことが主な原因と考えられます。

カレイ類堅調！

主力であるムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 66 トンで、ほぼ前漁期並み、平年を約 7 割上回りました。ムシガレイは前漁期に引き続き好調に推移しました。

近年減少が続いていたソウハチですが、今漁期は小型魚が中心ながら、比較的まとまって漁獲されました。1 統当たり漁獲量は 12 トンで、ほぼ平年並み、前漁期を約 1 割上回りました。また、ヤナギムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 14 トンで、ほぼ前漁期並み、平年の 1.2 倍の漁獲がありました。カレイ類は概ね堅調に推移しました。

イカ類低調！

ケンサキイカの 1 統当たり漁獲量は 18 トンで、不漁だった前漁期の 1.5 倍の漁獲がありましたが、平年の約 8 割に留まりました。一方、ヤリイカの 1 統当たり漁獲量は 3.3 トンで、平年の 7 割に留まりました。

アンコウ好調！

アナゴの 1 統当たり漁獲量は 21 トンで、平年並みでした。アンコウの 1 統当たり漁獲量は 34 トンで、好調だった前漁期を 4 割上回る漁獲がありました。また、キダイの 1 統当たり漁獲量は 26 トンで、低調だった前漁期の 2.8 倍、平年の 1.7 倍の漁獲がありました。アカムツの 1 統当たり漁獲量は 17 トンで、前年の 7.5 倍、平年の 2.3 倍の漁獲があり、小型底びき網漁業と同様好調に推移しました。しかしながら、小型魚（特に産卵前の 2 歳魚）が中心であったことから、産卵量への影響が懸念され、今後の資源動向には注意が必要と考えられます。一方、ニギスの 1 ヶ統当りの漁獲量は 16 トンで、前漁期の 6 割、ほぼ平年並みの漁獲に留まりました。

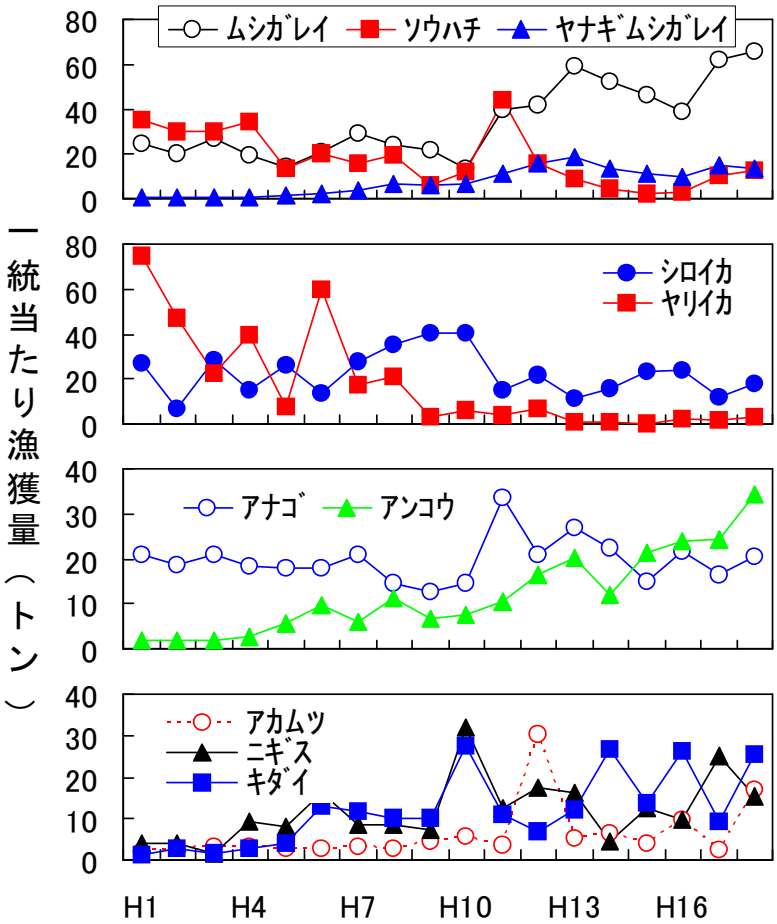

図4　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における
主要魚種の動向